

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2020 年度 国際共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2021 年 5 月 10 日 提出

1. 研究課題名	
黎明期広告業界誌『プレスアート』広告現物の研究 (英文表記: Study on advertising materials that early advertisement trade journal " Press Art " distributed)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
竹内幸絵(たけうちゆきえ) TAKEUCHI Yukie	同志社大学社会学部 教授 Professor, Department of Media, Journalism and Communications, Faculty of Social Studies, Doshisha University
3. 研究分担者 (合計: 2 名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
佐藤守弘(さとうもりひろ)	同志社大学文学部 教授
熊倉一紗(くまくらかずさ)	大阪成蹊大学 芸術学部 准教授
4. 研究課題の概要(300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)	
<p>本研究は昭和 12(1937)年に広告現物の頒布を目的に京都で創刊された広告業界誌『プレスアート』の調査とデータベース化によって、広告表現を時代意識の有力な証言者と位置付けた探究に資することを旨とするものである。同誌は戦時 5 年の停止期をはさみ昭和 61(1986)年まで、およそ 45 年間月刊で発刊された。発行部数が極めて少なく幻の存在だったが、334 号分、およそ 6 千点に及ぶ広告現物のほぼ全てが発行人遺族宅にて発見された。同時期の広告現物資料としては比肩する類例がないこれらを、本研究で調査しデジタルデータベース化する。付属冊子に記載の発行年、印刷種別、制作経緯等とあわせみる事が可能な形式を構築し、社会学・デザイン史・写真史・メディア史といった多方向からの学際的なアプローチが可能な広告史探究資料となることを目指す。</p>	
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)	
<p>今年度は今後のさらなる展開をみし、2019 年度までに ARC サーバーへの移行を終えた2つのデータベースのうち、広告作品約 6000 点のスナップ写真と作品付帯情報のメタデータを掲載している『『Presarto』広告(作品)データベース』の再整備を行った。</p> <p>具体的には浮世絵データベースのフォーマットにて運用していた全データを、構造がシンプルでより汎用性の高いデジタル資源データベースへ移行した。</p> <p>移行にあたってはデータ・レイアウトの検討に予想以上に時間を要した。このこともあり、今年度予定していた新たな画像データの搭載には至らなかった。現在は移行後の新データベースにおいて、検索キーの動きなどを検証している段階である。</p>	

6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)

(7) 科学研究費助成事業

(最終年度) 科研基盤C「黎明期広告業界誌『プレスアルト』広告現物全調査に基づく関西の広告史研究」2016-2020 (2019年度終了を1年延長し2020年度に終了)